

# 戦争の犠牲者を悼む

## 宇佐の「平和のともしび」 掩体壕

【宇佐】終戦記念日の15日夜、「第18回平和のともしび」が宇佐市城井の城井1号掩体壕であった。市内の児童と地域住民がペットボトルや竹で作った灯籠約600個に火をともし、宇佐海軍航空隊から出撃して戦死した特攻隊員や空襲による犠牲者を悼んだ。

黙とうをした後、平田崇英・平和のともしび委員長（73）や城和道・下城井区長（68）らが「戦争経験者が減り、歴史の伝達が難しいと感じる。一方でロシアのウクライナ侵攻で戦争が身近になってきている。戦争の悲惨さ、平和の大切さを次世代に伝えていきたい」とあいさつした。

平田委員長や長岡空夢史さん（10）＝四日市北小5年、友莉空さん（8）＝同3年＝姉妹らが献花台の竹灯籠に献灯し、花を手向けた。市民団体「豊の国宇佐市塾」によると、市内は10回以上の空襲があったとされる。元塾生の井上治広さんの最新調査では435人が空襲で死亡し、このうち名前が判明している民間人と軍人は95人。出撃して戦死した特攻隊員154人や殉職者らを含む死者数は計667人になるという。

（藤本昌平）



①平和への願いを書いたペットボトルの灯籠に火をともし、周辺は優しい明かりに包まれた②献花する長岡空夢史さん（右）と友莉空さん＝宇佐市城井

大分合同新聞 2022年8月20日（土）朝刊 17面

